

チェックテスト 解答

7章 各論：遂行機能障害への介入

1 遂行機能とは (p.221)

①

目的を持った一連の活動を有効に成し遂げるために必要な機能。

②

- 1) 目標の設定,
- 2) 計画の立案,
- 3) 計画の実行,
- 4) 効果的な行動

2 遂行機能の特徴 (p.223)

①

遂行機能障害はすべての前頭葉損傷で見られるわけではなく、他の脳部位の損傷によっても起こるため。

②

ほかの高次脳機能の状態に依存しているが、どれにも属さない、独立した上位の機能である。

3 遂行機能障害の評価 (p.231)

①

検査だけに頼らない、退院後の生活や役割に必要な作業能力について情報を集める、ほかの高次脳機能障害の有無や程度を確認する など。

②

遂行機能障害症候群の行動評価 日本版 (BADS), ウィスコンシンカードソーティングテスト (WCST), 修正ストループテスト, 語の流暢性課題, ハノイの塔課題, ティ

ンカートイテスト, Frontal Assessment Battery (FAB), 遂行機能障害の質問表 など。

③

問題解決能力

④

思考の切り替え, 推論する能力

⑤

退院後の生活や役割遂行に必要な作業や課題を実際にやってみる, あるいはそれらへの対応を口頭で説明してもらうなどして, 計画や実行に問題はないか, 結果を適切に振り返り改善に生かすことができるか, 環境や条件が異なっても対応できるかなどをチェックする。

⑥

対象者が自分の状態をどうとらえているかが分かるほか, 家族や介護者にも答えてもらうことで, 両者の認識の差を把握できる。

4 遂行機能障害への介入の実際 (p.235)

①

対象者にとって身近であり, その目的と必要性を理解できる作業を示しながら, 対象者とともに改善点を考えること。

②

動作の計画, 見通し, 1つ1つの手順を, 声に出して確認する方法。

③

より複雑な課題について, 問題の分析, 解決方法のリストアップ, 解決方法を実施した結果の判断を経て, 間違いや非効率な部分があれば最初に戻る。

④

目標設定が困難な対象者に用いられること

が多い。現在の状況を分析し、現実的な主目標とそのための副目標を設定した上で行動を計画、構造化する。

⑤

- 1) スケジュール帳,
- 2) To Do リスト,
- 3) 携帯電話,
- 4) 高次脳機能障害者向けに開発された支援アプリケーション(手順支援, アラーム, スケジュール管理などの機能) など。

⑥

- 1) 混乱を招く可能性のある刺激を除去する,
- 2) 周囲の障害理解と対応を統一する,
- 3) 適切な反応を評価し対象者の自己効力感を高めるなど。